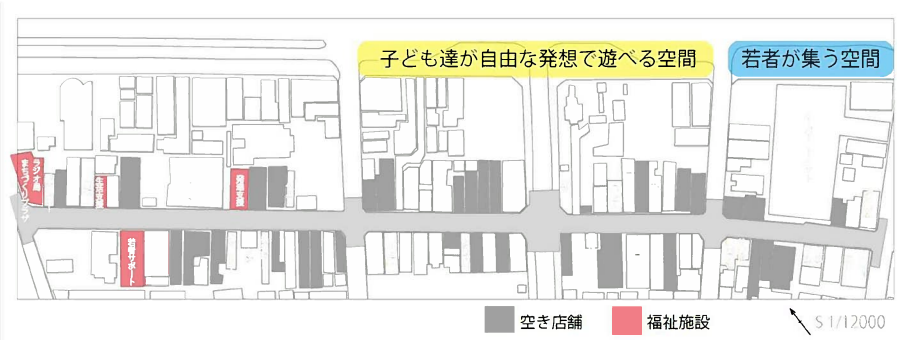
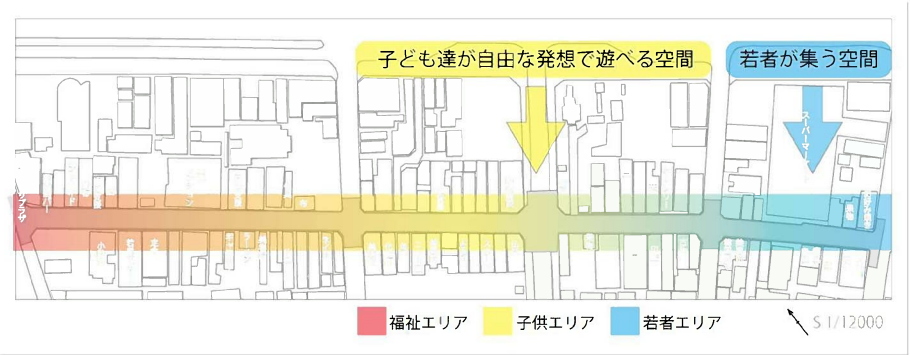
受付番号　１２

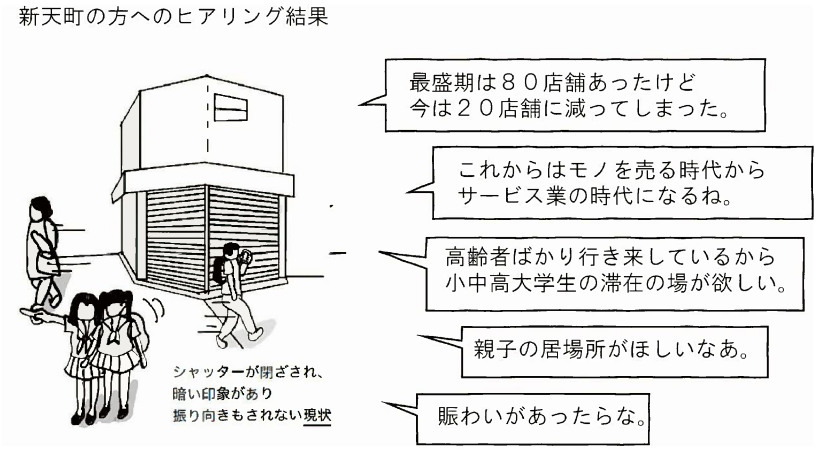
【様式第１号】

# 宇部市新天町リボーンプロジェクト事業　提案応募用紙

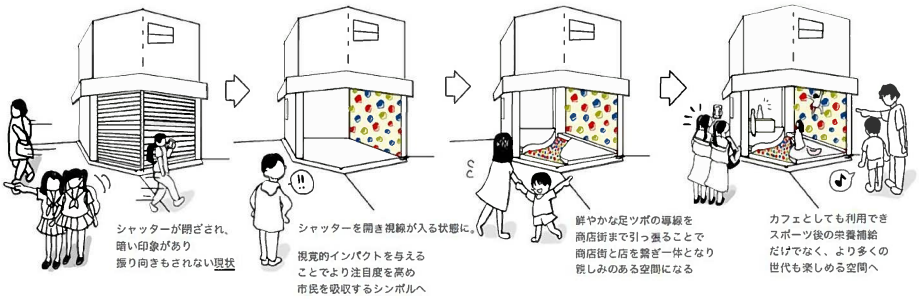
住所
団体名
連絡先

| | |
|---|---|
| 業種 | ボルダリング＋足ツボ＋おにぎりカフェ（店舗名：POP STEP） |
| 営業日時<br>（想定） | 月・水　店休日<br>平日：11:00～20:00<br>土日：11:00～18:00 |
| コンセプト・<br>事業概要 | **【敷地分析】**<br>新天町では現在、真締川方面に福祉施設が集積しており、中津瀬神社前、ボスティビルド前では 子ども達が自由な発想で遊べる空間、若者が集う森のような空間として整備計画が進められている。<br>  <br><br>広域コンセプト図１<br>その結果、新天町は真締川方面からボスティビルド方面まで福祉エリア・子供エリア・若者エリアとして活動量に応じて緩やかに分けられる。今回の対象敷地である天狗屋は、子どもたちが自由に遊べる場に属している。<br>  <br><br>広域コンセプト図２<br>将来的に常盤通りがアーバンスポーツの盛んな場になることが計画されており、その活気ある公園のような雰囲気をときわ通から一本外れた新天町にも取り入れるために、商店街の空き店舗に気軽に立ち寄れるアーバンスポーツ施設＋休憩所が必要であると考えた。 |

【課題の発見】
ヒアリング結果によると、以下のような問題点・要望が集まった。



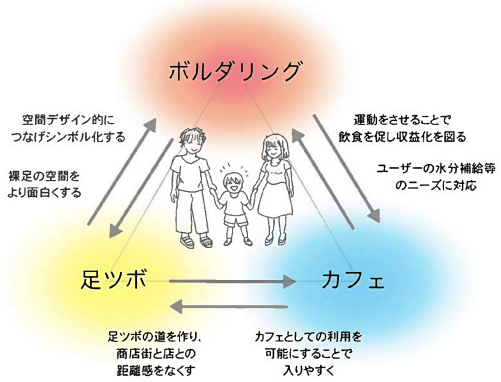

【コンセプト】
　今回の設計対象地である天狗屋は、常盤通りとボスティビルドからのアクセスがしやすい。その利点を生かした、人を惹きつける新天町のシンボルかつ、若者エリアと子供エリアをつなぐ空間を目指す。
　現状で新天町の多くの店は、シャッターにより閉ざされ、暗い印象となり、振り向きもされていない。そこで、中高生や子供連れの保護者に、ボルダリングや足ツボいったアクティビティだけでなく、カフェなどの憩いの場を新たに提供することで、多くの世代が楽しめる空間とする。

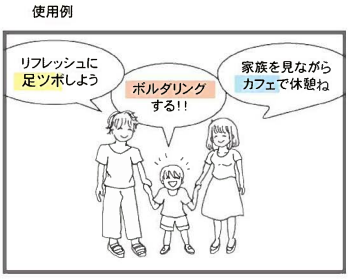



　商店街が元気を取り戻すためには、モノを売る場からサービス業の展開の場とすること、そしてとりあえず店舗のシャッターを開けてみることが大切だといわれている。今回の敷地である天狗屋は大きな開口部が特徴的であり、このシャッターを開けてこそ成り立つサービス業として壁面を大きく使うボルダリングと、それを商店街とつなぐ足つぼを選択している。

【店舗名の由来】
　店舗名として、「POP STEP」を選定した。店内に広がる明るくポップな印象に加え、この店舗から聞こえる子どもたちの元気な声が新天町に広がることで、商店街全体を元気にさせたいという思いが込められている。また、カフェ内の足つぼコーナーで楽しそうに足踏みする利用者の姿や、カフェから飛びだした若者たちが商店街を散策することを願い、「POP STEP」と名付けた。

カフェやボルダリングを、足つぼなどの運動コーナーを一緒にすることで、下記のような連携がとれる。




商店街の利点として、雨でも利用しやすいことや、お金を使わずに楽しめることがあげられる。そこで、リビングのような交流施設を提案する。

【おにぎりカフェの提供メニュー】

カフェのメニューをおにぎりとドリンクとしている。

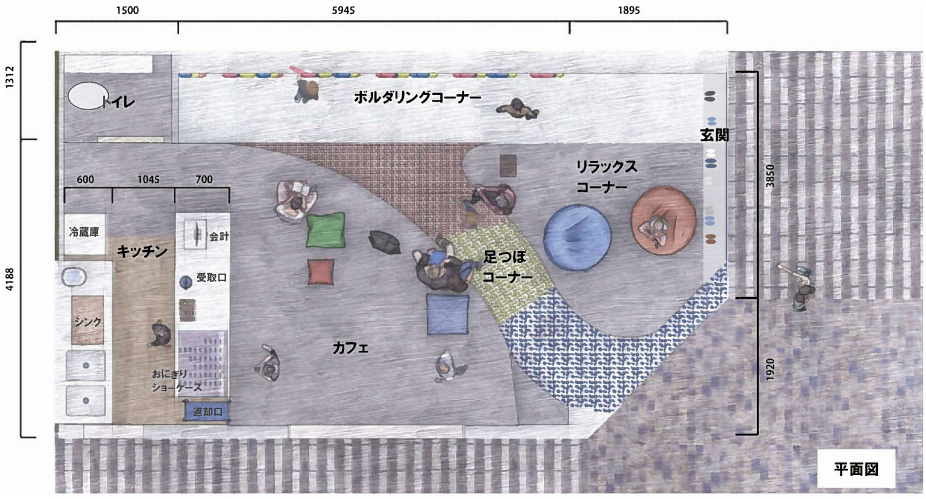
このカフェには、周辺で遊んでいる親子はもちろん、ボスティビルドの 1 階で勉強している中高生が休憩に来ることを考え、価格帯が手ごろで元気が出るおにぎりを主なラインナップとした。

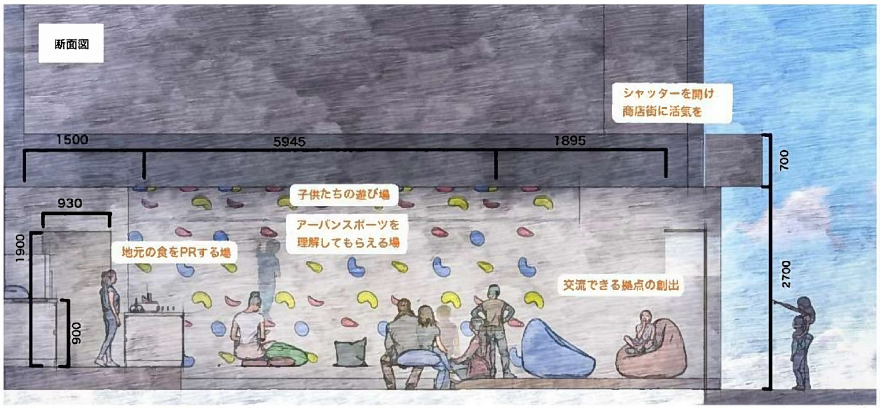
宇部市で水田面積が近年減少しているという現状を考慮し、お米農家を応援したいという意味を込めて、メニューとしておにぎりを採用した。また、特産品である小野茶や夏みかんジュースなど、宇部や山口県のおいしい食べ物を PR できる場としている。

【意匠的観点】

この案はボルダリングパネルと足つぼのマットを設置し、床にはカーペットをおくリノベーション計画となっていて、比較的容易にレイアウトが可能である。また、カフェの部分と足つぼやボルダリング用安全マットの部分は300 ㎜の差を設け、浅く腰掛けたり子どもがよじ登ったりすることができるようにしている。意匠的特徴は、コンセプト図にあるように店の奥まで視線を通す仕組みはもちろん、ボルダリングを楽しむ子供を見守りながら飲食ができることに加え、机や椅子を置かないことで広々としたカフェ空間を実現させたことである。このように裸足で上がり込めるリラックス空間、すなわちリビングのようなカフェにすることを意識している。

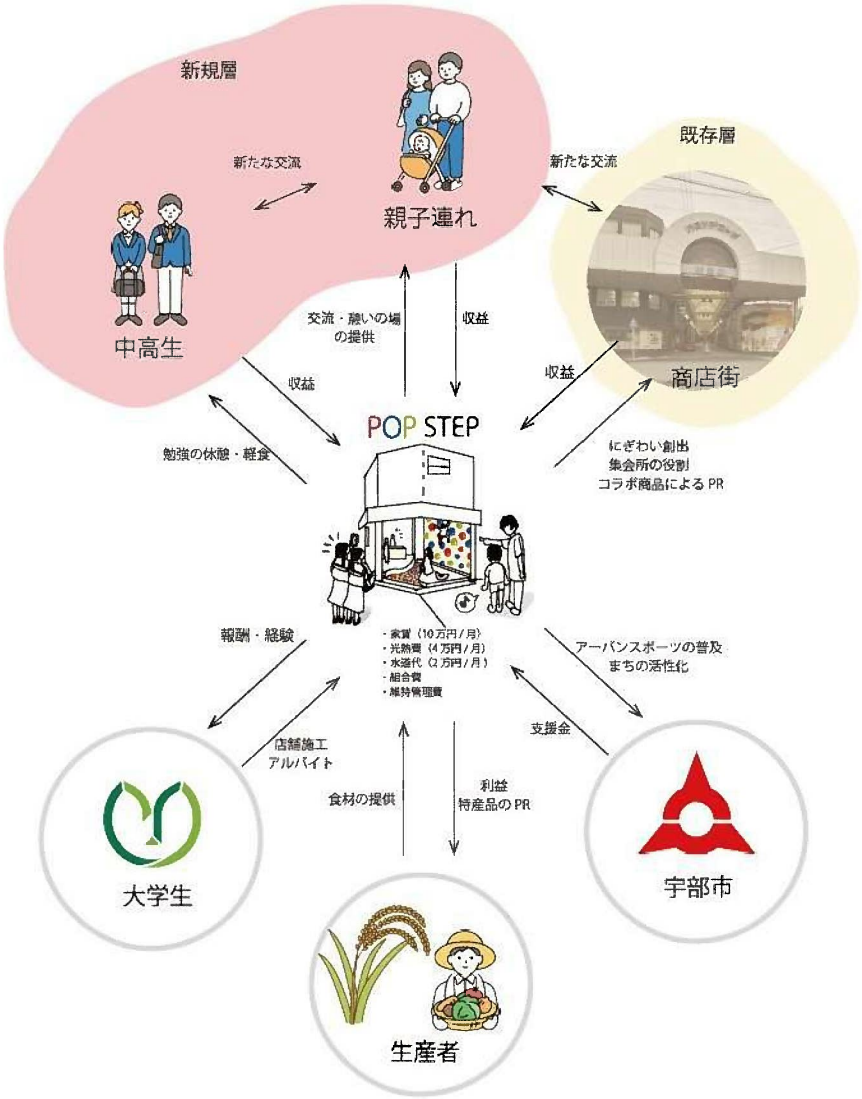
【図面】



| | |
|---|---|
| 事業効果等 | 【回遊性】<br>　この事業は主に子育て世代を対象としている。キッズラップや新しくできるマンションからの流入が見込め、またカフェ内で出会ったママ友・パパ友との交流から、より活気のある商店街ができあがることが期待できる。<br>　また、ボスティビルドの１階で勉強する中高生は、そのアクティビティがボスティビルドの中で完結している。新天町の商店街の中に魅力的で比較的手軽なカフェが出現することで、勉強やおしゃべりの休憩がてら商店街に足を運び、その周辺の店を散策するきっかけができるのではないだろうか。<br>　最後に、商店街をかつて盛り上げた高齢者らの回遊性に関して述べる。彼らは昔営業していた店舗のシャッターを閉め切って２階部分に住み続けている。水回りの共有などの問題から、貸テナントとせずシャッターを下ろし続けている。このような現状が続くと、いつか新天町は静かに眠ってしまうであろう。この問題に対して、理解のある事業者のもとで子どもたちやその親の集う空間を作ることで、高齢者が歩いて楽しい商店街をつくることができる。そしてこのような元気のある商店街の姿を見た高齢者らがシャッターを開放し、多世代の交流の場やサービス業、テナントなどをもう一度展開することを望む。<br><br>【波及性】<br>　このリノベーションは見た目だと大胆な提案であるように見えるが、実はボルダリングパネルや足つぼのマットなどは設置が簡単である。この提案は大掛かりな工事がいらない仮設空間に近い。このカフェに感化されたひとが自分の店舗でやってみるといったことも可能であり、小さな室内運動スペースがいつか商店街中に散らばってくれることを期待している。<br>この事業は、運動できる空間にカフェという憩いの空間を併設させることで、若者を呼び込むことができる。また、老若男女問わず、多世代交流を促すことで、新天町ににぎわいを創出させる。さらに、将来的には、他の空き店舗でも様々な運動のきっかけとなる場所をつくり、常盤通りだけではなく新天町を中心に宇部市がアーバンスポーツのまちとなっていくことを期待する。 |

【相関図】

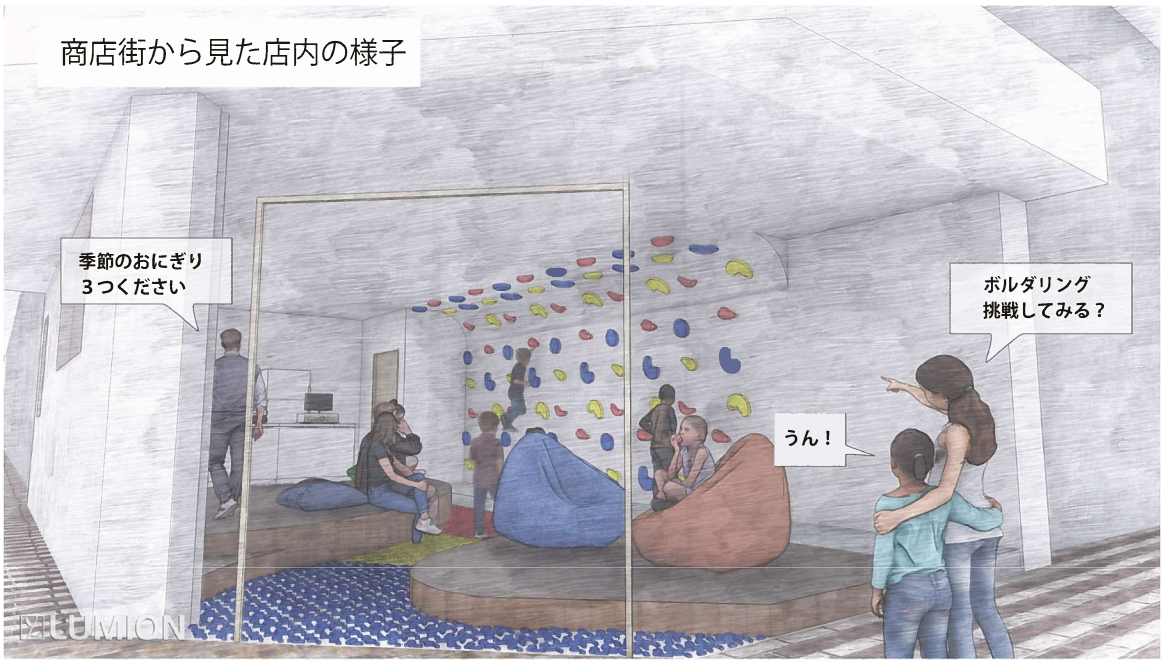


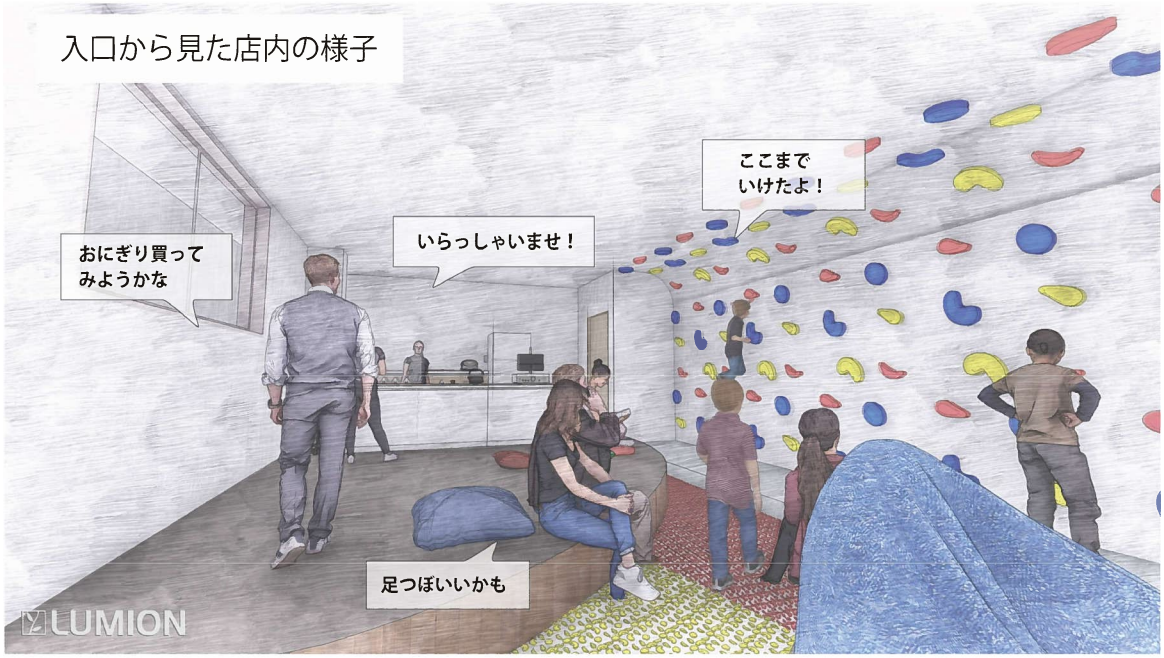

この店舗は商店街のにぎわい創出に寄与するだけでなく、商店街の人々に対してカフェ空間を提供することで、ときに集会所としての機能も果たす。また、既存店舗とのコラボ商品を販売することなどにより、店舗どうしの連携を深め、既存店舗の PR も兼ねる。

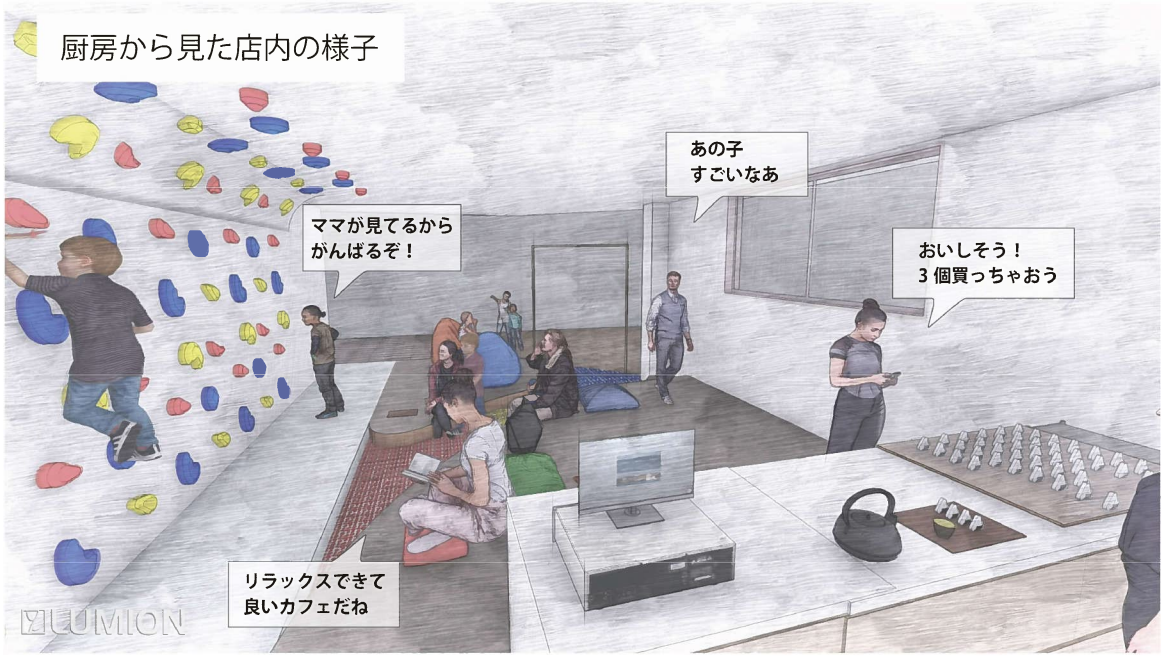
大学生は、店舗施工時には作業に携わりさまざまな経験や知識を得る。施工の過程から事業に参加し新天町と関わることで、この店舗やこのまちに対しても愛着が湧くことであろう。さらに営業開始後にもアルバイトとして労働力となり事業を支え、大学生はその対価として報酬を受け取る。

| | |
|---|---|
| | 【おわりに】<br>今からこのカフェをきっかけに宇部市の新天町に訪れる子どもたちは、ママ・パパに見守られて遊ぶうちに友達ができる。また運営者である比較的年齢層の若い人々に囲まれ、遊び疲れたらおにぎりやドリンクなど知らず知らずのうちに宇部市や山口県のおいしい食べ物を食べる。そうしてこのリビングのような店内に通ううちに、いつしか商店街の人々と交流したり、このまちの文化やあたたかみに触れる機会が生まれるであろう。子どもたちがボルダリングコーナーや足つぼコーナーを通してすくすくと育つことによって、地元への愛着が生まれ、いつか宇部市に戻ってきてくれる・思い返してくれることを期待している。 |

以下、天狗屋のパース案を添付します。




入口から見た店内の様子
おにぎり買って
みようかな
いらっしゃいませ！
ここまで
いけたよ！
足つぼいいかも
LUMION


厨房から見た店内の様子
ママが見てるから
がんばるぞ！
あの子
すごいなあ
おいしそう！
3 個買っちゃおう
リラックスできて
良いカフェだね
LUMION